

手配される返還手法



報道を見る佐喜真淳氏(中央)と歓声を上げる支持者ら。24日午後9時5分、宜野湾市野黨の選挙事務所

佐喜真氏一問一答

「現実的な対応に評価」
 「多くの選対スタッフや議員 前に進めたい」
 「一期目の抱負は何か。」「二期目にも残り残したことを着実に進めたい」
 「一期目の抱負は何か。」「二期目にも残り残したことを着実に進めたい」

「移設先」避け大勝 国、辺野古争点外す

解説
 現職の佐喜 軍普天間飛行場返還・移設問題については「固定化阻止」を強調し、移設先への言及を一貫して避けた。名護市辺野古への移設をめぐる県と政府が法廷闘争に突入する中、推薦した政府与

4年間実績が浸透
 施策差別化図れず
 勝因・敗因
 投票
 高い

社説 佐喜真氏再選

新基地容認ではない

国に「5年以内」閉鎖責任
 決められた。一地域の選挙で決定するものではない」と述べた。民意をないがしろにする許さない発言だが、翁長県政与党が支援した志村恵一郎氏が落選したことを促して、辺野古移設が支持されたとする可能性がある。曲解は許されない。敵に懐くべきではない。佐喜真氏は「普天間飛行場の固定化は許さない」と訴えて出陣した。選挙結果が示すことは、普天間飛行場によって市民が危険にさらされている状況を、1996年「無条件の閉鎖撤去」は計1・1%に上った。1月調査でもその割合に上った。